

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ 前提条件および注意事項

- ・仮想サーバーインスタンスのリサイズ時には、仮想サーバーインスタンスのステータスが電源停止状態であることを推奨しております。

※インスタンス起動状態でも本手順は実行可能ですが、処理の過程でインスタンスの停止、起動が実行されます。フレーバーの変更実行前に、データ等の保存を実施してください。

また、インスタンス上のアプリケーション等を停止した状態で実施してください。

- ・Windows Server 2012R2では、インスタンスのリサイズを絶対に実行しないでください。
※新環境では、Windows Server 2012R2の提供がないため、インスタンスのリサイズを実行するとOS起動不可となります。切り戻しもできないため、ご注意ください。

- ・ボリューム種別の変更は、以下の状態での実行を推奨しております。

- ・仮想サーバーインスタンスにアタッチした状態 (※)

- ・アタッチした仮想サーバーインスタンスが稼働中

※月額固定料金のOSが入ったボリュームについて、アタッチ/デタッチを繰り返すとそれに応じて、OSに係る月額固定料金が発生するので、ご注意ください。

(サーバーインスタンス - サーバーインスタンス 詳細情報)

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ 仕様上の制限

- 仮想サーバーインスタンスのリサイズによるシリーズ変更とボリューム種別の変更をあわせて行う際は、必ず以下の順序で実施してください。
 1. 仮想サーバーインスタンスのリサイズによる変更 (V1A⇒V2B)
 2. ボリューム種別の変更 (Type-A⇒Type-B)

※仮想サーバーインスタンスのシリーズが「V2B」の場合にのみ、ボリューム種別を「Type-B」へ変更することが可能です。
- 本手順にて仮想サーバーインスタンスのリサイズによるフレーバー変更、ボリューム種別の変更を実施し、新環境への移行した場合、元のシリーズやボリューム種別に戻すことはできません。

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ 移行作業内容

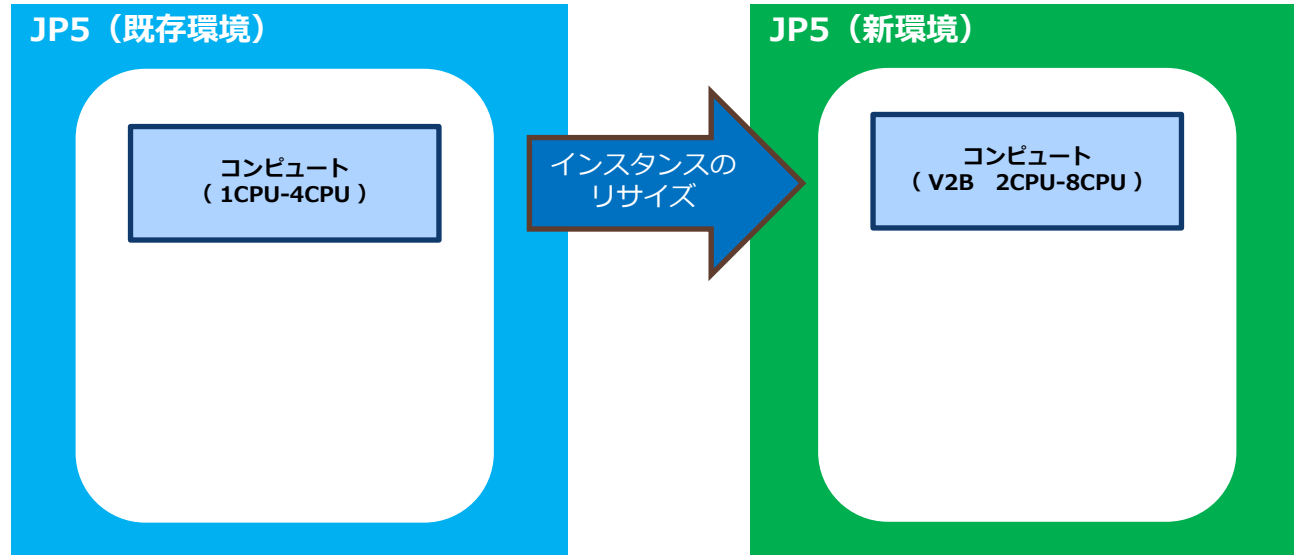
システム構成によって必要な手順が異なります。

構成に合わせて、パターンA、B、C作業を実施してください

パターン	構成	実施する作業
パターンA	仮想サーバーインスタンスのみ	① 仮想サーバーインスタンスのリサイズ
パターンB	仮想サーバーインスタンス+ボリューム	① 仮想サーバーインスタンスのリサイズ ② ボリューム種別の変更
パターンC	ボリュームのみ	② ボリューム種別の変更

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

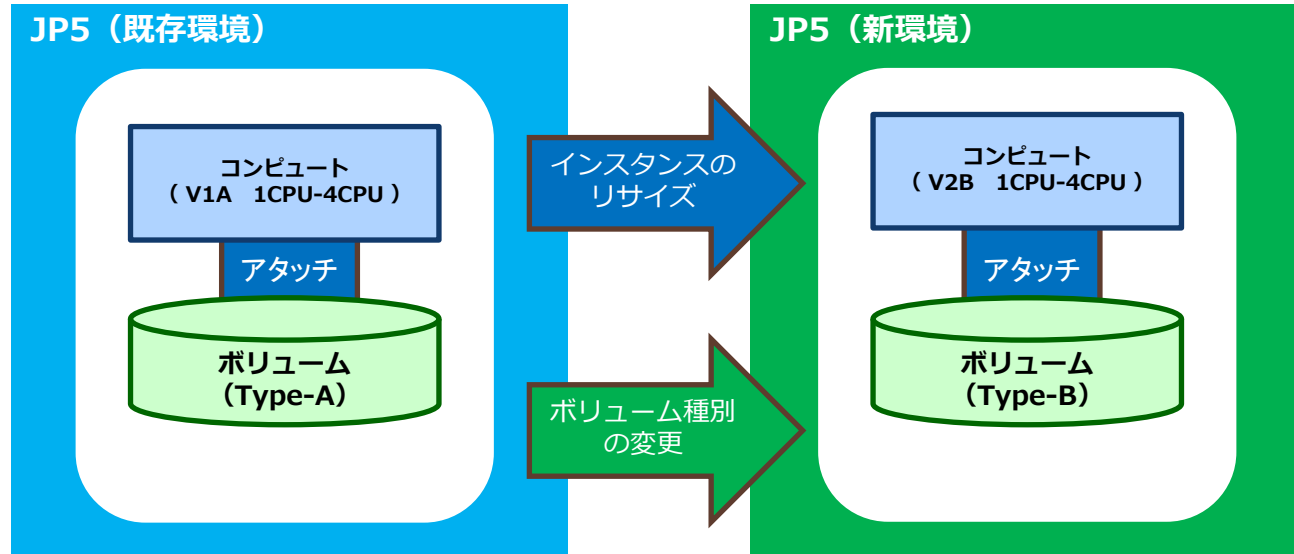
- パターンA：仮想サーバーインスタンスのみ



- 実施する作業
⇒ ①サーバーインスタンスのリサイズ (手順：7～10ページ)

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ パターンB：仮想サーバーインスタンス+ボリューム

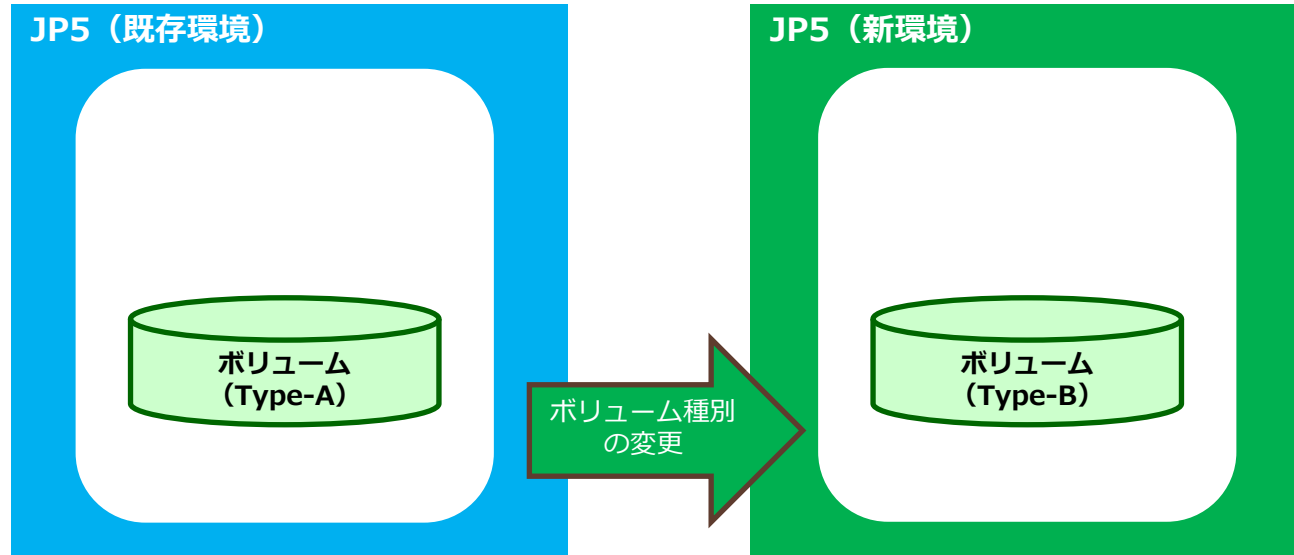


■ 実施する作業

- ⇒ ①サーバーインスタンスのリサイズ (手順：7～10ページ)
- ②ボリュームのリタイプ (手順：11～13ページ)

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ パターンC: ボリュームのみ



■ 実施する作業

⇒ ②ボリュームのリタイプ (手順: 11~13ページ)

①仮想サーバーインスタンスのリサイズ

サーバーインスタンス APIリファレンスを参照し、Resize ServerのAPIを実行します。

[Resize server - サーバーインスタンス APIリファレンス | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

<Resize Server APIコマンド構成>

```
curl -X POST https://nova-{Region Name}-ecl.api.ntt.com/v2/servers/{server_id}/action ¥  
-H "Content-Type: application/json" ¥  
-H "X-Auth-Token: {your_token}" ¥  
-d '{  
    "resize": {  
        "flavorRef": "{flavor_id}"  
    }  
'
```

※パラメータについては、それぞれ以下の通り。

{Region Name} : 対象サーバのあるリージョン
{server_id} : リサイズするサーバーのUUID
{your_token} : 取得した認証トークン
{flavor_id} : V2Bから始まるフレーバー

①仮想サーバーインスタンスのリサイズ

コマンド例) JP5にある仮想サーバーインスタンスのフレーバーを「シリーズ：none」 「サイズ：2CPU-8GB」から、「シリーズ：V2B」 「サイズ：2CPU-8GB」に変更する。

<コマンド例>

```
curl -X POST https://nova-jp5-ecl.api.ntt.com/v2/servers/abcdefghg-1234-abcd-1234-abcdefghijkl/action ¥  
-H "Content-Type: application/json" ¥  
-H "X-Auth-Token: abcdefghijklmnopqrstuvwxyz~1234567890~" ¥  
-d '{  
    "resize:" {  
        "flavorRef": "V2B_2CPU-8GB"  
    }  
'
```

API実行後、レスポンスコード「202」が返ってきたら受付完了となり、リサイズが開始されます。

※レスポンスコードがエラーの場合は、APIリファレンスを参照し、エラーコードに合わせて対応してください。

[Resize server - サーバーインスタンス APIリファレンス | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

リサイズ状況については、次ページ記載の「Show Server Details」のAPIを実行し、確認します。

※所要時間の目安 : 容量30GBにつき4~8分（基盤の利用状況などによって実際の時間と異なる場合があります。）

インスタンスのリサイズ処理完了した後も「シリーズ」の項目が更新されない、もしくは、「ステータス」の項目がエラーになった場合は「①仮想サーバーインスタンスのリサイズ」手順を再実行してください。

再実行しても解消されない場合は、チケットシステムよりお問い合わせください。

①仮想サーバーインスタンスのリサイズ

サーバーインスタンス APIリファレンスを参照し、Show Server DetailsのAPIを実行します。

[Get server details - サーバーインスタンス APIリファレンス | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

<Show Server Details APIコマンド構成>

```
curl -s -X GET https://nova-[Region Name]-ecl.api.ntt.com/v2/servers/{server_id} ¥  
-H "Content-Type: application/json" ¥  
-H "X-Auth-Token: {your_token}"
```

※パラメータについては、それぞれ以下の通り。

{Region Name} : 対象サーバのあるリージョン
{server_id} : リサイズするサーバーのUUID
{your_token} : 取得した認証トークン

① 仮想サーバーインスタンスのリサイズ

対象の仮想サーバーインスタンスについて、「server : status」が「ACTIVE」（リサイズ前にSHUTOFFしていた場合は、「SHUTOFF」）、「flavor : id」がリサイズ時に指定した値に変化することを確認します。

Show Server Details APIコマンド実行結果例)

```
{  
  "server": {  
    "id": "abcdefg-1234-abcd-1234-abcdefghijkl",  
    "name": "sample-server",  
    "status": "ACTIVE",  
    ~中略~  
    "flavor": {  
      "id": "V2B_2CPU-8GB",  
      ~以下略~  
    }  
  }  
}
```

②ボリューム種別の変更

ブロックストレージ APIリファレンスを参照し、Retype a volumeのAPIを実行します。

Block Storage API V3 (CURRENT) — cinder documentation

※ 仮想サーバーインスタンスにアタッチしたボリュームに対して、Retype a volumeのAPIを実行する場合は、
「①仮想サーバーインスタンスのリサイズ」によるシリーズ変更が正常終了していることをご確認の上、手順を進めてください。

また、アタッチした仮想サーバーインスタンスが稼働中であることをご確認ください。

<Retype a volume APIコマンド構成>

```
curl -X POST https://cinder-[Region Name]-ecl.api.ntt.com/v3/{project_id}/volumes/{volume_id}/action ¥
-H "Content-Type: application/json" ¥
-H "X-Auth-Token: {your_token}" ¥
-d '{
  "os-retype": {
    "new_type": ¥"{new_volume_type}",
    "migration_policy": "on-demand"
  }
}'
```

※パラメータについては、それぞれ以下の通り

{Region Name} : 対象サーバのあるリージョン
 {project_id} : テナントID
 {volume_id} : リタイプするボリュームのUUID
 {your_token} : 取得した認証トークン
 {new_volume_type} : Type-B

②ボリューム種別の変更

コマンド例) JP5にあるボリュームのタイプを「Type-A」から、「Type-B」に変更する

<コマンド例>

```
curl -X POST https://cinder-jp5-ecl.api.ntt.com/v3/abcdefghijklmnopqrstuvwxy12345/volumes/abcdefg-1234-abcd-1234-abcdefghijklmnopqr/action ¥  
-H "Content-Type: application/json" ¥  
-H "X-Auth-Token: abcdefghijklmnopqrstuvwxyz~1234567890~" ¥  
-d '{  
  "os-retype¥": {  
    "new_type¥": "Type-B",  
    "migration_policy": "on-demand"  
  }  
}'
```

- API実行後、レスポンスコード「202」が返ってきたら受付完了となり、リタイプが開始されます。
※レスポンスコードがエラーの場合は、APIリファレンスを参照し、エラーコードに合わせて対応してください。
[Block Storage API V3 \(CURRENT\) — cinder documentation](#)

リタイプ状況については、次ページ記載の「Show volume details」のAPIを実行し、確認します。

※所要時間の目安 : アタッチ状態のボリューム容量1TBにつき1~2時間
(基盤の利用状況などによって実際の時間と異なる場合があります。)

ボリュームのリタイプ処理完了しても「種別」の項目が更新されない、もしくは「ステータス」項目がエラーになった場合は、「②ボリュームの種別の変更」手順を再実行してください。

再実行しても解消されない場合は、チケットシステムよりお問い合わせください。

②ボリューム種別の変更

ブロックストレージ APIリファレンスを参照し、Show volume detailsのAPIを実行します。

[Block Storage API V2 \(DEPRECATED\) - サーバーインスタンス APIリファレンス | Smart Data Platform Knowledge Center](#)

<Show volume details APIコマンド構成>

```
curl -s -X GET https://cinder-[Region Name]-ecl.api.ntt.com/v2/{project_id}/volumes/{volume_id} ¥  
-H "Content-Type: application/json" ¥  
-H "X-Auth-Token: {your_token}"
```

対象の仮想ボリュームについて、「volume : status」が「in-use」もしくは「available」、「volume_type」がリタイプ時に指定した値に変化することを確認します。

<Show volume details APIコマンド実行結果例>

```
{  
  "volume": {  
    "status": "in-use",  
    ~中略~  
    "volume_type": "Type-B",  
    ~以下略~  
  }  
}
```

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ 切り戻し方法

- 仮想サーバーインスタンスのリサイズ、ボリュームのリタイプを実施した場合、切り戻しはできません。

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ 手順通り進まない場合の対処方法

- エラー等が発生した場合や手順に関する不明点がございましたら、チケットシステムよりチケット起票いただきお問い合わせください。

※チケット起票手順につきましては、「[SDPFクラウド/サーバー関連チケット起票方法](#)」をご参照ください。
お問い合わせ内容によって下記区分をご選択ください。

Incident Submission	:	故障・不具合に関するお問い合わせ
General Inquiry	:	設備更改のガイドラインおよび手順書に関するお問い合わせ

- また、次スライドにFAQも用意しておりますので、併せてご参照ください。

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ FAQ

- Q1 : 新環境移行作業（仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更）は、同時に何台まで実行可能ですか？
- A1 : 新環境移行作業（仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更）は、1テナントあたり同時に2台まで実行可能です。
※複数ボリュームが1つのインスタンスにアタッチされている場合でも、同時に実行可能なボリュームは1台までです。

また、システムを保護するため、別途リージョン全体でも並列実行数の制限をかけております。

- Q2 : 新環境移行作業（仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更）実行時にエラーとなった場合、
どういった挙動をしますか？
- A2 : 新環境移行作業（仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更）は、実行されずに終了します。
再度、新環境移行作業（仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更）の実行をお願いします。
- Q3 : 新環境移行作業（仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更）後に不具合が発生した場合、
旧環境への切り戻しは可能ですか？
- A3 : 仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更による切り戻しは出来ません。

1.1.2 仮想サーバーインスタンス新環境移行 (インスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) 手順 (API版)

■ FAQ

- Q4 : ボリュームをアタッチした仮想サーバーインスタンスの場合、インスタンスのリサイズとボリューム種別の変更どちらを先に実行すればよいですか？
- A4 : 仮想サーバーインスタンスのリサイズによるシリーズ変更を先に実施する必要があります。
必ず以下の順序で実施してください。
1. 仮想サーバーインスタンスのリサイズによる変更 (V1A⇒V2B)
 2. ボリューム種別の変更 (Type-A⇒Type-B)
- ※ 仮想サーバーインスタンスのシリーズが「V2B」の場合にのみ、ボリューム種別「Type-B」へ変更が可能。
- Q5 : 新環境移行作業 (仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) の所要時間を教えてください。
- A5 : 所要時間の目安は下記の通りです。但し、基盤の利用状況などによって実際の時間は異なる場合があります。
- ・仮想サーバーインスタンスのリサイズ (ルートディスク) : 容量30GBにつき4~8分
 - ・ボリューム種別の変更 (アタッチ状態) : 容量1TBにつき1~2時間 (※)
 - ・ボリューム種別の変更 (デタッチ状態) : 容量1TBにつき6~12時間 (※)
- ※実容量ではなく、契約容量に依存します。
- Q6 : 新環境移行作業 (仮想サーバーインスタンスのリサイズ/ボリューム種別の変更) による通信影響はありますか？
- A6 : 仮想サーバーインスタンスのリサイズについては、インスタンスがシャットダウンされるため、その間インスタンスはご利用頂けません。
ボリューム種別の変更については、ボリュームを利用したまま移行作業が可能ですが、移行の安全性を高めるためにアプリケーションの停止を推奨しております。